

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400342		
法人名	有限会社ドリームサトウ		
事業所名	グループホームもみじの里		
所在地	群馬県富岡市妙義町上高田660-1		
自己評価作成日	平成24年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成24年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの中庭から、春は梅やさくら、秋には紅葉と季節の移り変わりや、自然の景色を堪能することが出来ます。敷地内には、畑がありいろいろな野菜が栽培されおり時季になると沢山の野菜が収穫され、調理されて食卓に並べられ楽しく味わっています。また災害時の時のためにと、近隣の家々との連絡網が出来ており、いざというときの緊急応援の整備が整っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、家族と共に本人を支えあうために、情報の提供と共有化を大切に考えている。そのためには、毎月の支払いを直接払いとしたり、衣類の入れ替えを依頼したりしながら、職員と家族等が会う機会をつくり、入居者の状況を伝えあうなど、信頼関係の構築に努めている。そうしたなか、家族からのアイデアが出されたり、入居者の状況にあわせて家族との外食を勧めたりするなど、家族と共に入居者を支える支援が行われている。近隣とのつきあいは、できるだけ出ていくことを心がけており、地域の運動会では地域の方が入居者の手をたずさえてくれるなどの関係がある。また、災害時には、近隣の方の緊急応援連絡網が作成されており、避難者の見守りなどを担うこととなっている。今後は、施設の機能・設備を活かして、地域の方の避難場所的な役割を担っていきたいと考えており、相互互助を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝の申し送り時に確認し利用者と職員が共に笑顔で過ごし穏やかな生活が送れるように努めている	開設当初の理念を見直し、より具体的に現し、地域に開かれたホームを目指すことを謳っている。申し送り時には唱和し、玄関やホールに掲示している。職員は地域の方等への挨拶や呼びかけには、言葉の頭に「ぜひ」をつけて施設への訪問を促し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人々に手紙で知らせしたり、庭先で地域の人と話をしたり催し物(歌や踊りの慰問、夏祭り)の時は参加を呼びかけている。	地域の方との交流は、「来て下さい」と声をかけるだけでなく、こちらから出ていくことが大切であると考えている。近くのデイサービスとの交流(食事)や小学校の運動会見物でのふれあい、商工会の協力による七夕祭りへの七夕飾りの出品などが行われ、地域の一員としての活動が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や電話相談等で認知症について心配なことがある時は「相談してください」と呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の日程を前もって文書で連絡し年間の行事や慰問、施設内の報告をします。家族には利用者の現状報告をし、各委員の意見や希望などを日常的な支援につなげている。	会議開催は、年間予定を立てて実施している。主に行事内容等を報告し、参加者からの意見を聞いている。参加者からは、災害時の協力への意志表示や「体操の指導を施設で」等の提案などの意見が出されている。	施設からの報告を基に、参加者からのさまざまな意見を受けた、双方向的な会議の実現により、一層サービス向上につながる会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が開催する会議に参加しそこで意見や希望を述べて助言や指導を受けている。	市の主催するグループホーム会議には、市内のグループホーム10施設が集まり、日頃の支援の課題等を順番で出し合い、市からの助言を受けている。また、ホーム長が市の担当課に出向き、施設との情報の共有化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束の意義を分かり合い拘束しないケアを実践するよう努めている。玄関の施錠は出来る限りしない方向で取り組んでいる。	自由に安全に過ごせるように、日常の活動状況には目を離さないような、見守りの支援を行っている。家族の了解をもとに、夜間転倒の危険がある入居者の上掛けにすずをつけたり、職員の手薄になる入浴時間帯には玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待なども含めて、虐待を起こさない施設作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員それぞれ学ぶ機会を持って関係者と話し合い必要な人に制度が活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行い本人・御家族に理解して頂き分からないことは聞いて頂き納得の上入居して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や日頃利用者や家族から意見や不満・苦情等があった場合は、施設長、職員が話し合い今後の運営に反映させている。	毎月の支払いを直接払いとしたり、衣類の入れ替えを依頼したり、時には状況にあわせて家族との外食を勧めたりしながら、職員と家族等が会う機会をつくっている。来所した際には、お茶を出してゆっくりしてもらいながら、要望等を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や何かあったときは随時会議を開き話し合いをもっている。なおかつ、申し送りノートを活用している。	職員は、毎朝の申し送りで意見を言える機会がある。その他、管理者は勤務のなかで職員個々の意見を聞いている。勤務表は、職員の状況や希望をあわせて作成されている。現在、職員の意見をもとに、日頃から入居者の健康上の相談と医療が受けられる医師の確保を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や考え方を聞くなかで向上心をもって働けるような環境や条件を整えていくように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議ではテーマを元に勉強会を行っている。外部研修を受ける機会を確保するよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック単位での研修に参加し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者は新しい環境に不安なため声かけや説明を多くして安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること不安なこと要望等によく耳を傾け信頼関係が築けるよう来所持や電話等で聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の声をよく聞き「いま何が必要か」利用者に合ったサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の楽しみや、趣味等を伺い日々の生活を通して共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者について相談し合い家族との絆を大切に、共に協力しあって一緒に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が頻繁に面会に来ており、親戚や知人の面会も多く昔話などしている。家族には季節の衣料の入れ替え等依頼して面会の機会を増やすなど支援している。昔の旅行や家族と一緒に写真を持ってきてもらい思い出話をしている。	定期受診等で馴染みの方と再会する機会もあり、その縁で施設訪問に繋がるなど、あらゆるチャンスを活かした支援が行われている。入居者の希望した行きたい場所を探して、入居者皆で出かけるなど、表出された希望には沿うように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌や体操レーション散歩・雑談などをして孤立させないようかかわり合いを持つように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に悩みや心配事があればいつでも気軽に声をかけてくださいと話しかけている。退所されても家族の方がホームに顔を出してくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から本人の思いや嗜好の把握に努めている困難な場合は面会時に家族から情報を得るようにしている。	主に、表出された、自らがしたい作業・意見等をもとに支援計画に繋げている。その他、これまでの生活歴から検討して、日頃の動作や表情を観察して、そのひとらしい、生活を送ってもらうよう支援している。また、表出できない方のしぐさや表情から、何を伝えたいのかを常に意識して取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴や暮らし方、生活環境を紙面に記入していただいたり話を聞いたりして把握に努めている入居後も本人・家族・親類から過去の情報を伝えてもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を観察し記録を行い現状を総合的に把握するように努めている出来ないことより、出来ることに目を向け意欲的に生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員と話し合い意見やアイデアを出し合って本人に合った介護計画を作るようにしている月1回のモニタリングも介護計画に反映している。	職員は、毎月1回モニタリングチェックをして、カンファレンスで介護計画を作成している。本人や家族には、職員やケアマネジャーが申し送りノート等をもとに、日頃から希望や意見を聴取するなか、介護計画を作成している。3ヶ月に1回見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量・水分量・排泄チェック表を利用し日々の様子やケア内容・気づきや工夫を個別記録に記入し職員間で情報を共有しながらケアしたり介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への受診はホームで対応しているが本人や家族の状況・要望に応じた柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて関係者と協力しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を大切にして定期的を受診をし適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族が希望する、これまでのかかりつけ医を受診している。定期受診は、主に職員が対応し、変化の大きい場合は家族が同伴している。受診の際には、体温・血圧や食事・水分量等を記録した用紙を持って施設での様子を伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員が相談しながら日常の健康管理や適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は管理者や職員が時々面会に行き医師や看護師と情報交換や相談を行っている、その後も連絡を取り合い退院してスムーズに施設生活に移行できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と相談の上でホームの生活が困難になるであろうと予測される場合は早い段階から本人・家族等と話し合いをしている。ホームで出来ることを十分に説明し方針を共有しながら支援に取り組んでいる。	口から食事が摂れなくなった場合を重度化と考慮しており、その他、医療的な処置が必要となった場合には、家族等と相談しながら今後の対応を検討している。以前には、病院との連携をとりながら、看取りを行ったこともある。	今後、医療関係者も含めて方針を共有されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々利用者の様子を観察し様子がいつもと違う場合はバイタル測定や変わった様子等を確認しすぐにかかりつけ医の受診をする。急変時は救急車の要請を行い速やかな受診を心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署職員や地域消防団の指導のもと、夜間を想定した火災訓練・通報訓練・避難訓練等を行っている。災害時には近隣の人達に対する緊急応援連絡網が整備され訓練にも参加してもらっている。	運営推進会議とあわせて訓練を行い、会議のメンバーも参加した訓練となっている。災害時の緊急応援連絡網は、職員のものとは別に近隣の方のものがあり、災害時には近隣の方に避難者の見守りを担ってもらうこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する書類は事務所で保管し守秘義務厳守を職員に行っている排泄介助やトイレ誘導には入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉使いを徹底している。	ホーム長の指導により、基本的には「さん」の呼称となっているが、以前から親しまれていることから「ちゃん」づけで呼ばれている方もいる。トイレ誘導は、羞恥心に配慮してあからさまに伝えないよう配慮したり、排泄時はカーテン越しに待ったりしながら、入居者を尊重した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に沿うよう話をよく聞き解るような説明を行い納得したうえで暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は一人ひとりの体調に配慮しながら本人のペースを大切に支援し入浴など拒否する時は希望する時間を聞いて配慮している。散歩や買い物など本人のやりたいことなど希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容師さんが来初したりボランティアによるヘアカットや職員が利用者の要望に応じてカットをしその人らしいみだしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑や地域でとれた新鮮な食材を利用し利用者の好みを取り入れた季節感のある食事を提供している。利用者の力を生かし、職員と一緒に食事の準備や後かたづけをしている。	栄養士の職員が献立を作成し、職員が調理している。施設の畑で収穫された野菜や、近隣の方に頂いた野菜など、旬の野菜を使った料理を提供している。嫌いなもの・食べにくいものについては代替食を提供するなど、個々に工夫しながら食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事が確保できているかチェック表にこまめに記入し不足しているときは補う努力をし一人ひとりの健康状態を観察し栄養バランスのとれた献立になるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し本人が上手にできないときは仕上げを行う、嫌がるときは時間をおいて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のリズムを把握して習慣を活かしトイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄パターンにあわせて、2～3時間おきにトイレ誘導を行っている。できるだけトイレでの排泄ができるよう、立ち上がり運動や歩行訓練を毎日行い、その結果を記録している。夜間もトイレでの排泄が本人にとって大切で、快適であることから、トイレ誘導による自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や飲み物等へ気配りし食前の運動を取り入れて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴日を設定して支援している。体調不良の利用者にはタイミングを見て支援している。季節毎にゆず湯・菖蒲湯・入浴時間回数等一人ひとりの希望に沿って支援している。	週2回～3回、午前中に入浴支援を行っている。個室であるが、脱衣所では羞恥心に配慮するなか、入居者が入れ替わることもある。入浴の際に、歌を歌ったり、昔話を聞いたりして楽しい時間となっている。入浴拒否者には、職員を代えて声かけするなど、入浴への支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを把握し、その時々状況に応じて休息を取ってもらっている。気持ちよく眠れる工夫をして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で申し送りをし体調や症状の変化の確認を行いかかりつけ医や看護師と相談して薬の量の加減をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器ふき、テーブル拭き・洗濯物たたみ・手芸等個々の生活パターンを理解し支援している。また歌を歌ったり庭で近所の人達と声を掛け合っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出したり、季節毎にホームで計画して花見・納涼祭・紅葉狩り等を行っている。本人の希望により買い物に行けるように支援している。	歩行できる方が少なく、気候の良い時には中庭で歌を歌ったり、お茶を飲んだりしている。季節毎に花見や紅葉狩りなどに、全員で出かけている。買い物は、自分で使うクリームなど、個別に希望に沿って支援している。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を理解している利用者がいない為紛失による不安や混乱を生じないように所持していない。必要な時には支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により職員が取り次いで支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの広々した玄関にはソファアが数脚配置され前の道を通る人たちと手を振り合う等利用者の憩いの場所となっている。またホールの天窓からは温かな陽光が差し込まれ随所に季節の草花や観葉植物が配置されている。夏場にはグリーンカーテンを設けてゴーヤや朝顔を楽しんでる。	広く明るい玄関には、ソファアが置かれ、訪問者等とも談話できるスペースとなっている。ホール兼居間は吹きぬけ天井で広々としており、壁には外出行事の写真等が飾られている。グリーンカーテンやよしずを使って、快適に過ごせるように工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの近くや外の景色が眺められるように椅子やソファアを置いて好きな場所で過ごせるよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のお気に入りの家具が備え付けられている。本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを飾られ一人ひとりが心地よく過ごせるよう配慮している。	日当たりのよい居室は、窓からの眺めもよい。洋服ダンスやベットが好みに合わせて自由に配置されている。ぬいぐるみや家族の写真なども飾られ、その人らしい部屋づくりとなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手摺や足元灯が取り付けられてありテーブルや椅子など角が丸くなっているものを置いているまたトイレの場所が分かるように、案内啓示をしており空間も広く安全に生活ができるよう配慮している。			